

## 第4章 対象事業実施区域及びその周囲の概況

沿線の地域特性に関して、入手可能な最新の文献その他の資料により把握した結果を下記に示す。

対象事業実施区域<sup>(1)</sup>を含む周辺市町村<sup>(2)</sup>は、方法書と同様とし、神奈川県内で、川崎市、横浜市、相模原市、愛川町、清川村の3市1町1村とした。

なお、川崎市では中原区、高津区、宮前区、多摩区、麻生区の5区、横浜市では青葉区の1区、相模原市では中央区、緑区の2区が対象事業実施区域に含まれる。

### 4-1 地域特性の概要

神奈川県は、関東平野の南端に位置し、北は東京都、北西は山梨県、西は静岡県に接している。また、東は東京湾、南は相模湾に面し、県土南東部に位置する三浦半島が両湾を隔てている。一級河川は、東京都との都県境の多摩川、県土中央部を北から南に流れる相模川があり、両河川の間県土東部に鶴見川があるほか、県土西部には二級河川の酒匂川が流れている。地形は、標高1,000m以上の山々を有する丹沢山地と箱根火山で特徴づけられる起伏の激しい山がちの西部地域、多摩丘陵と三浦半島などの丘陵地形を呈する東部地域、相模川を中心としてその両側に広がる平坦な段丘と低地からなる中央地域に三分される。

県内の総面積は、約2,416km<sup>2</sup>であり、この内、約39%が森林、約27%が宅地、約8%が農用地、その他（水面、道路等を含む）約26%となっている。

神奈川県は太平洋に面しているため、気候は太平洋側気候に区分され、雨量が多く、温暖である。また、地形の特徴から海岸沿いの丘陵部は海洋性気候の特徴を示し、相模原市など山地部は内陸性気候の特徴を示す。横浜地方気象台の過去10年間の観測によると、年平均気温が約16℃、月別には6～27℃で変化し、1月が最も気温が低く、8月が最も気温が高くなる。年間降水量は約1,800mmであり、国内の年間平均降水量と同程度である。月別の降水量は10月が最も多く、次いで9月であり、一方、降水量が最も少ないのは1月であり、次いで2月となっている。

人口は、平成24年10月現在、約9,070千人である。市町村別に見ると横浜市の人口が約3,700千人で最も多く、次いで川崎市が約1,440千人、相模原市が約720千人、愛川町が約42千人、清川村が約3千人となっており、これらで県内人口の6割以上を占めている。なお、3市は政令指定都市となっている。

産業別の就業者数は、第3次産業が最も多く約76%、第2次産業が約23%、第1次産業が約1%となっている。第3次産業については、全国平均より就業者の割合が多く、第1次産業及び第2次産業は全国平均に比べて低い割合となっている。

<sup>(1)</sup>「対象事業実施区域」：本章のみ「対象事業実施区域」は、方法書と同様に設定して記載した。

<sup>(2)</sup>「対象事業実施区域を含む周辺市町村」：地域特性の調査対象範囲は方法書と同様とし、対象事業実施区域及びその周囲に位置する市町村のデータとした。

神奈川県内には、富士箱根伊豆国立公園の1つの国立公園、丹沢大山国定公園の1つの国定公園のほか、丹沢大山、真鶴半島、奥湯河原、陣馬相模湖の4つの県立自然公園が存在する。また、自然環境保全法に基づく自然環境保全地域等の指定はないが、神奈川県自然環境保全条例に基づき、70地域約11,236haの自然環境保全地域が指定されている。さらに、49地区約15,003haの風致地区、5区域約989haの歴史的風土保存区域、7区域約4,800haの近郊緑地保全区域、10地区約815haの近郊緑地特別保全地区、147地区約517haの特別緑地保全地区が指定されている。